

定期作況報告

平成24年7月
(7月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温は平年並で、最低気温および平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より少なかった（平年比42%）。日照時間は平年より多かった（平年比151%）。

7月上旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年より極めて高く、平均気温は平年より高かった。降水量は平年より極めて多かった（平年比202%）。日照時間は平年並であった（平年比84%）。なお、7月5日に最大1時間降水量32.5mmの激しい降雨が観測された。

7月中旬：最高気温は平年より低く、最低気温は平年よりやや低く、平均気温は平年より低かった。降水量は平年よりやや少なかった（平年比62%）。日照時間は平年並であった（平年比104%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温、降水量および日照時間はともに平年並であった。

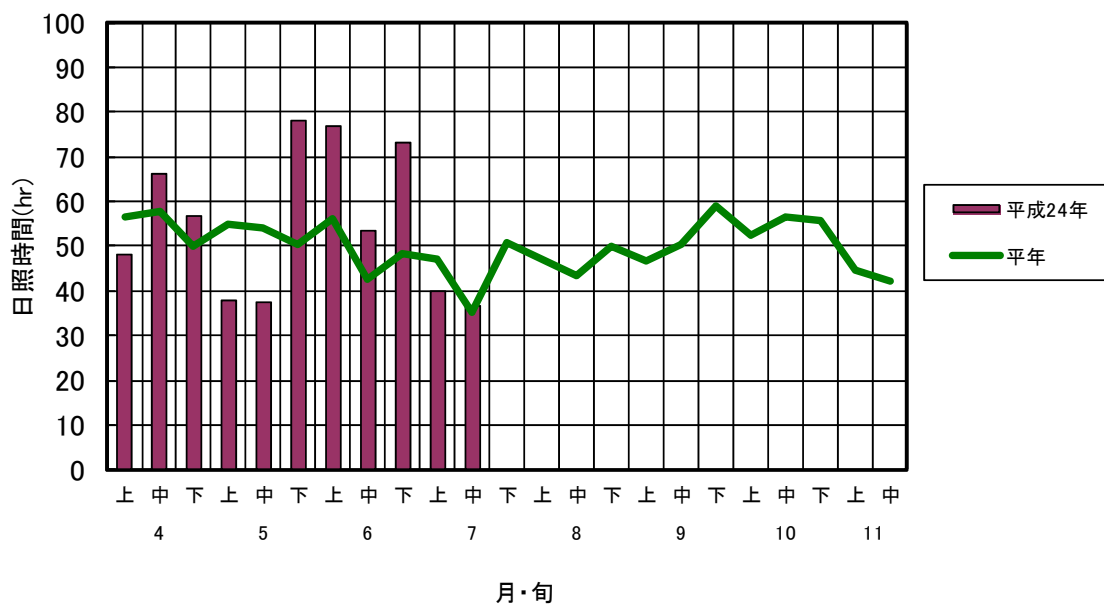
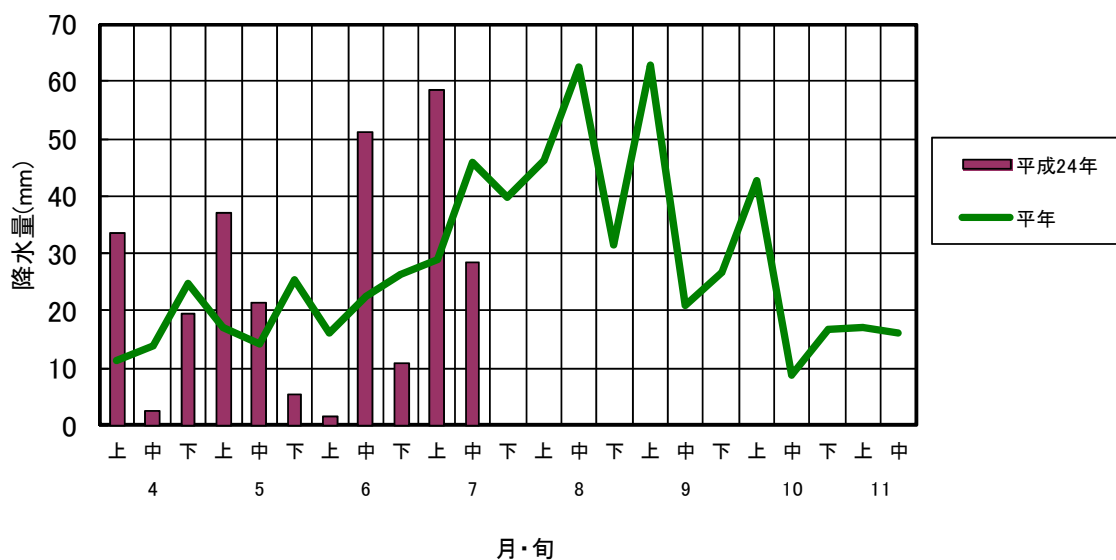
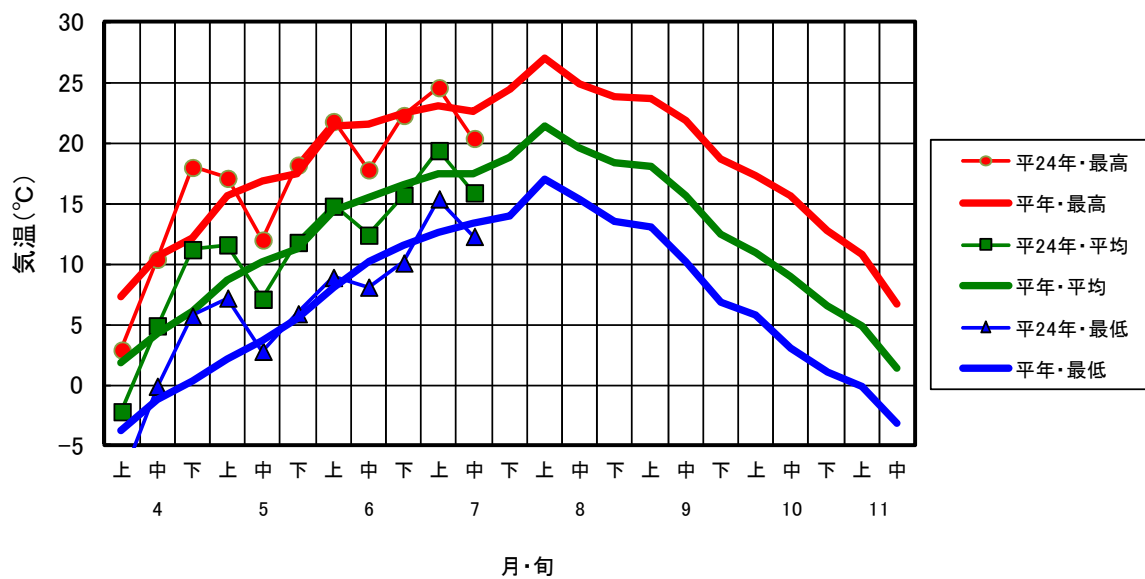
気 象 表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	15.7	16.5	△ 0.8	22.3	22.5	△ 0.2	10.1	11.6	△ 1.5
7月上旬	19.4	17.5	1.9	24.6	23.1	1.5	15.4	12.6	2.8
7月中旬	15.9	17.5	△ 1.6	20.4	22.6	△ 2.2	12.3	13.3	△ 1.0

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	11.0	26.5	△ 15.5	73.0	48.4	24.6
7月上旬	58.5	28.9	29.6	39.9	47.3	△ 7.4
7月中旬	28.5	46.0	△ 17.5	36.6	35.2	1.4

注 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：やや不良

事由：6月下旬の気温は平年よりやや低かったが、7月上旬の気温は平年より高かったことから、前節に続き生育ステージが進んだ状態で推移した。7月中旬の気温は低く、登熟に日数を要している。稈長はほぼ平年並、穂長は平年よりやや長い、穂数は平年より少ない。倒伏は未発生である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (成熟期)	89	87	2
穂長(cm) (成熟期)	9.3	8.4	0.9
穂数(本/m ²) (成熟期)	600	767	△167

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、19年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：出穂期は「春よ恋」で平年より2日早かった。稈長は平年より長く、穂長・穂数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月・日)	6.23	6.25	△2	6.20	6.24	△4
稈長(cm) (7月20日)	98	90	8	99	92	7
穂長(cm) (7月20日)	8.0	8.2	△0.2	7.2	7.4	△0.2
穂数(本/m ²) (7月20日)	559	580	△21	573	600	△27

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

「はるきらり(参考)」の平年値は前5か年の平均。

3) とうもろこし（サイレージ用）

作 況：平年並

事 由：6月下旬と7月中旬の気温が平年より低く推移したことから、7月20日の草丈は平年を約15cm下回っているが、葉数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	152.9	167.5	△14.6
葉数(枚) (7月20日)	12.3	12.1	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成19年（最豊）、21年（最凶）を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況：やや不良

事 由：平均気温は7月上旬が平年より高かったが、6月下旬はやや低く、7月中旬は低かったため、生育がやや停滞ぎみで開花始は平年より遅れている。主茎長及び分枝数は平年並であるが、本葉数が平年よりやや少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	-	7.19	-
主茎長(cm) (7月20日)	45.9	46.3	△0.4
本葉数(枚) (7月20日)	5.8	6.6	△0.8
分枝数(本/株) (7月20日)	3.1	3.2	△0.1

注) 平年値は前7か年中、平成17年（最豊）、21年（最凶）を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：やや不良

事由：平均気温は7月上旬が平年より高かったが、6月下旬はやや低く、7月中旬は低かったため、生育がやや停滞した。主茎長は平年より短く、本葉数はやや少なく、分枝数は少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	-	7.24	-	-	7.26	-
主茎長(cm) (7月20日)	13.0	17.7	△4.7	13.9	16.8	△2.9
本葉数(枚) (7月20日)	5.2	5.9	△0.7	5.2	5.9	△0.7
分枝数(本/株) (7月20日)	0.5	1.9	△1.4	0.8	1.6	△0.8

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：平均気温は7月上旬が平年より高く、6月下旬はやや低く、7月中旬は低かったが、生育への影響は小さかった。開花始は平年より2日遅く、分枝数は平年よりやや少ないが、草丈は平年よりやや高く、本葉数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.10	7.8	2
草丈(cm) (7月20日)	46.2	39.4	6.8
本葉数(枚) (7月20日)	3.1	3.2	△0.1
分枝数(本/株) (7月20日)	3.8	4.5	△0.7

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、22年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：植え付け、萌芽は平年よりやや遅かったが、6月下旬の降水量が少なく干ばつになったことから生育ステージの進行が早まり、開花期は「男爵薯」が平年より1日早く、「コナフブキ」は平年並となった。茎長は、7月上旬の高温とまとまった降水の影響を受けて伸長し、「男爵薯」はほぼ平年並であるが、「コナフブキ」はやや徒長気味である。また、茎数も平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	6.30	7.1	△1	7.1	7.1	0
茎長(cm) (7月20日)	45	47	△2	75	68	7
茎数(本/株) (7月20日)	3.9	3.5	0.4	2.8	3.2	△0.4

注) 平年値は前7か年中、平成17(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：やや良

事 由：6月下旬と7月中旬に気温が低めで、日照時間が平年並み以上に経過したため、地上部の生育は平年をやや下回ったものの、根重および根周は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播 注2)		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	51.1	57.5	△6.4	47.0	53.9	△6.9	48.7	51.1	△2.4
生葉数(枚) (7月20日)	24.3	21.5	2.8	22.6	20.5	2.1	19.9	18.6	1.3
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	667	712	△45	631	672	△41	487	492	△5
根重 (g/個体) (7月20日)	306	264	42	312	277	35	138	114	24
根周(cm) (7月20日)	22.4	21.5	0.9	23.1	22.8	0.3	17.3	16.8	0.5

注1) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 直播「モノホマレ」は欠株が多いため参考成績。

9) 牧草(チモシー)

作況: 良

事由: 1番草は平年より2日早い6月19日に収穫を行った。1番草の草丈は平年並であったものの、出穂程度は平年より高く(6月報告)、乾物収量は平年対比118%と多収であった。1番草刈取り後の生育は、欠株はなく、再生時の草丈は平年より7cm高かった。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
被度(%) 2番草再生時(7/14)	100	100	0
草丈(cm) 2番草再生時(7/14)	46	39	7
生草収量(kg/10a) 1番草	2894	2713	181
乾物率(%) 1番草	24.2	22.6	1.6
乾物収量(kg/10a) 1番草	701	596	105
同上平年比(%) 1番草	118	100	18

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

10) たまねぎ

作況: 平年並

事由: 6月下旬以降、気温、降水量はともに平年並であり、生育は概ね順調であった。「改良オホーツク1号」の球肥大期は平年より1日遅い7月7日であった。「改良オホーツク1号」では、生葉数、葉身生重、球生重が平年を上回っており、「スーパー北もみじ」では、生葉数、葉身生重、球生重が平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.7	7.6	1	-	7.20	-
草丈(cm) (7月20日)	78.7	77.5	1.2	78.8	80.9	△2.1
生葉数(枚) (7月20日)	9.7	9.2	0.5	9.5	10.3	△0.8
葉鞘径(mm) (7月20日)	21.5	20.6	0.9	20.9	21.6	△0.7
葉身生重(g) (7月20日)	142.6	129.7	12.9	127.5	137.0	△9.5
球生重(g) (7月20日)	119.5	112.2	7.3	46.3	53.6	△7.3

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、22年(最凶)を除く5か年の平均。